

## 編集者のことば

創刊号と第2号とは、いわゆる自然科学系の論文だけで編集したが、今回第3号は、いわば社会科学系の論文を集めたことになった。

これは、まったく偶然の結果であって、そう意図して企画したものではない。もともと都市研究を総合的な科学と理解している立場からすれば、自然科学とか社会科学とかいう区別は本来はないはずだが、具体的な個々の研究の実施とその結果の報告には、そのとりあげられた問題の性質上、および、研究者自身の素養から言って、そのような分類がかりのものとしてはできることになる。自然科学系とか社会科学系とか言ったのは、そういうかりの用語である。

本誌の題名が「総合都市研究」とかかげられた以上は、毎号、総合と言うにふさわしい諸分野の論文がそろふことは、できればそれにこしたことはないが、従来から継続的に行なってきた都市研究の成果報告が本誌の第一の目的であるから、研究報告を完成次第順次に発表してゆくという要請にも、編集者は従わなければならない。だから、一号ごとに見ると分野のアンバランスが生ずるのは、やむをえないこととして御諒解願いたいと思う。ただ年間を通ずれば、現在のところは三号分に限られるが、分野を総合しようという方向だけはうかがわれるよう編集してゆくつもりである。勿論、それ以上に大事なことは各論文の研究内容の総合性であるが、それこそ各筆者がそれぞれ求めようとしているものと、編集者は信じている。

本号所収の5論文の中、千葉正士・武内和彦と古屋野正伍とによる2は、52年度に始まった本センターの研究の第1次報告であり、したがって、準備的研究の報告である。詫摩武俊と森重敏との他の2は、センター設置以前の都市研究委員会時代の研究の成果である。

最後の渡辺良雄のものは、その主要部分をなす前半が、タイプ謄写版刷りの「都市研究調査報告7」として、同名のタイトルのもとに、1973年3月、東京都立大学都市研究組織委員会から刊行されたものである。これは、今始まったセンターの研究計画を実施してゆくの基礎資料として有用なものであるのに、印刷物の性質上ごく狭い範囲にしか頒布されていなかったもので、再録したものである。もともと有用な資料である上に、筆者が急拠それ以後の分を補ない、アップ・トゥ・デートにする労をとってくれたので、有用性は一層高まったはずである。